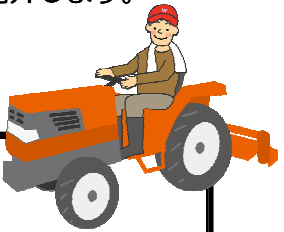


JA佐渡「自己改革」の取り組み

— 平成29年度 主な実践内容と取り組みの成果 —

第8次中期3カ年計画（平成28～30年度）で取り組むべき改革目標について「自己改革工程表」を作成し、進捗管理と実践に取り組んでいます。「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」のうち、農業関連の中心的な取り組みの成果と平成30年度の目標を抜粋して紹介します。（※平成29年度到達点は一部見込みを含んでいます）



4. 農業生産コスト低減に向けた取り組み

① 共同施設の有効利用の提案

	29年度の到達点	30年度目標
・カントリー等の活用提案	利用件数605件 稼働率83% 経費率50%	利用件数640件 稼働率90% 経費率40%
・おけさ柿選果場のコスト圧縮		

② 生産コスト低減技術・省力資材の提供（※）

	29年度の到達点	30年度目標
・予約結集による価格引き下げ	集約率80%	集約率90%
・自己引取りでのコスト低減	7,800千円低減	
・省力資材、大型規格の提案によるコスト低減	肥料43,000千円低減 農薬 集計中	90,000千円低減

※ 肥料の卸価格高騰（平均3.6%上昇）のなか、当JAでは経営努力により主要品目を中心に据え置き、平均1%の上昇に留めた。

③ 農業機械の経費削減

	29年度の到達点	30年度目標
・直は、密苗播種対応の農機具提案	集計中	普及面積 20%
・事前、格納整備による農機具長期使用の提案	事前点検 412件 格納整備 253件 ガソリン3,120千円 灯油 15,610千円	事前点検 440件 格納整備 350件 ガソリン3,200千円 灯油 13,900千円
・燃料コストの値引き還元		

5. 担い手づくりと担い手支援

① 出向く体制の強化

	29年度の到達点	30年度目標
・TAC、各担当の連携による提案力強化	《訪問活動》 ①農業経営相談795回 ②情報案内 662回 ③その他 192回	《訪問活動》 ①農業経営相談1,000回 ②情報案内 1,000回 ③その他 300回
・事業申請の援助による相談機能の強化	《活動内容》 ①園芸振興 6件 ②補助事業支援 1件 ③記帳代行推進14件 ④組織化支援 18件 ⑤資金調達 4件 ⑥その他 8件	《活動内容》 ①園芸振興 10件 ②補助事業支援 5件 ③記帳代行推進20件 ④組織化支援 10件 ⑤資金調達 5件 ⑥その他 10件
	※にいがた農業応援ファンド 申請 26件 事業費28,209千円 ※佐渡市色彩選別機導入事業 実績 17台導入	※にいがた農業応援ファンド 申請 30件 事業費30,000千円

② 担い手づくり

	29年度の到達点	30年度目標
・おけさ柿担い手育成塾による育成	塾生累計11名 （座学・園地での研修実施）	塾生累計30名
・新規就農者支援	補助事業申請事務支援 等	

③ 担い手農家の負担軽減

	29年度の到達点	30年度目標
・職業紹介事業による労働力確保	準備中	平成30年度開始
・Web農業簿記の利用による経営提案と経理支援	・新規就農者2名 ・経営体への経営改善提案会 10件	担い手100名

1. 佐渡米の販売強化と農業所得の向上

① 高品質良質米生産

	29年度の到達点	30年度目標
・一等米比率と食味の向上	一等米比率89.2% タンパク含有量5.9%	一等米比率90%以上 タンパク含有量6.0%以下

② 環境にやさしい農業の推進

	29年度の到達点	30年度目標
・コシヒカリ以外の5割減栽培の面積拡大	33.70%	50%
・佐渡市認証米の面積拡大	1,178ha	1,200ha

③ 販売活動の強化

	29年度の到達点	30年度目標
・消費者との交流による佐渡米周知	商談会5回・説明会3回	商談会・説明会8回
・佐渡米取扱店の拡大	250店	500店



2. 園芸生産30%アップと販売力強化による農業所得向上

① 島外競争力のある産地形成

	29年度の到達点	30年度目標
・アスパラガスの拡大（※）	6.5ha 1,930千円	8ha 12,800千円6ha
・水田フル活用での園芸作物	2.5ha 3,000千円	11,000千円

※ アスパラの平成35年度販売額目標 1億円

② おけさ柿の生産拡大

	29年度の到達点	30年度目標
・ジョイント栽培等の導入での改植面積	1.48ha	3ha
・現地指導会強化による収量向上	0.64 t / 10a	1.6 t / 10a
・加工柿等の付加価値商品の拡大	加工柿135,000千円 冷蔵柿 5,000千円	加工柿160,000千円 冷蔵柿 14,000千円

3. 地域内耕畜連携の強化による畜産・耕種農家の所得向上と生産拡大

① 畜産農家のコスト削減と地域循環

	29年度の到達点	30年度目標
・WCS（稲発酵粗飼料）の面積拡大	75ha	165ha
・米発酵飼料の供給によるコスト低減	（※1） 10t	85t
・耕種農家への堆肥供給	（※2） —	1,606t

※1 8月以降稼働の為 ※2 大型和牛繁殖支援施設稼働後より開始

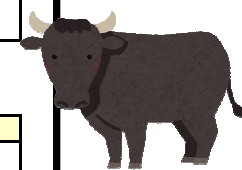
② 佐渡和牛の増頭支援

	29年度の到達点	30年度目標
・家畜上場頭数の増加による高値販売	259頭	300頭
・大型和牛繁殖施設での繁殖農家の子牛預かり	176,000千円 （※）12頭	206,000千円 30頭

※ 29年度は成牛のみ。大型和牛繁殖施設の子牛牛舎完成後は子牛も預かる。

③ 酪農家の所得向上と加工施設の機能強化

	29年度の到達点	30年度目標
・佐渡産から出来る高品質生産農場の継続	生乳出荷量1,600t	生乳出荷量2,000t
・加工施設の充実による乳製品の販売拡大	販売高185,000千円	販売高240,000千円



平成30年度

園芸
12億

米
46億

畜産
5.2億

農畜産物販売高
63億

農業生産基盤の確立により農業生産を拡大し、
平成30年度は63億円の実現を目指す。

JA佐渡は組合員・担い手・地域住民との徹底した話し合いを通じて、佐渡の食と農・地域を守る取り組みを進めてまいります